

<キッズベリー花育ラボ>の花育が、他とは違うのは、理由があります！

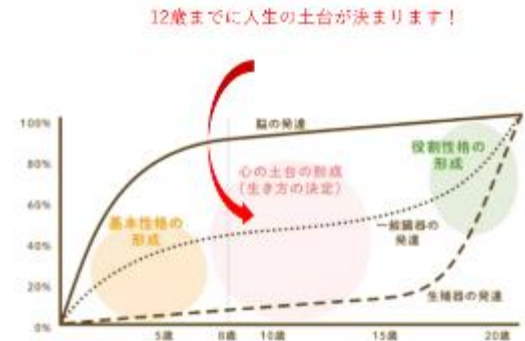
■主役は「子どものころ」

通常のアレンジメントレッスンではお花が主役。美しく活けるといったスキルは大人になってからでも習得できます。一方、キッズベリー花育ラボの花育レッスンの主役は、「子どものころ」。創造力や感性といった【生きる上での心の土台】作りは育てるベストタイミングがあります。



■生き方の土台、社会性・コミュニケーション力は12歳までに育つ・・・子ども時代の心育てが大人になってからの成功を決める

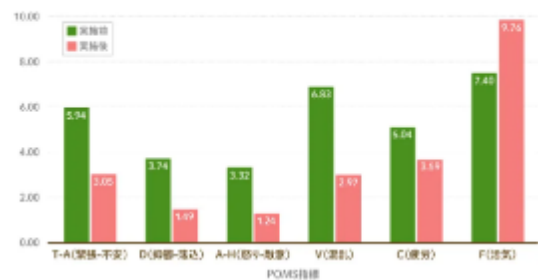
「優しさ」「共感力」「集中力」「くじけない強さ」「伸びやかな感性」「自己肯定感」といった【生きていくうえで大切な心の土台】を育めるのは、子ども時代の一時期だけです。およそ12歳までに社会性や生き方の基本姿勢が決定されます。つまり【生きていくうえで大切な心の土台】は幼少期に育ちます。



成人してからも社会性や生き方の基本姿勢を変更することはできますが、子どもの頃のようにしなやかに神経回路を結びなおすことは困難です。「豊かな心育て」に必要なのは、12歳までの間に感性を刺激する多彩な経験に包まれていることがおわかりいただけるでしょう。この時期に学んだことは一生涯にわたって影響を与え続けます。

■花育は情緒の安定に役立ちます・・・心理テストが証明する「情緒の安定」

気分変化を測定する心理テスト「POMS」をつかった検証により、花育を行うと、緊張、不安、抑うつなどの要素が軽減し、活気が上がることがわかります。



■長期化するコロナ禍の影響…子どもたちの不登校、自殺の増加など

コロナ禍でストレスを溜めてしまったのは大人だけではありません。子供たちの不登校、自殺が激増しました。不登校の小学生の人数はコロナ禍前の2019年度は53,350人（全児童の0.8%）、2020年度は63,350人（全児童の1.0%）と1万人も増えています。一方、児童・生徒の自殺者数は2019年度は339人だったのが、479人と41%も増加しました。

また、子供は幼児期に表情を読み取る能力を身につけるのですが、マスク生活の中で表情を読み取れない子供が増えてきているとも言われています。

その他、自粛生活による体力の低下、骨折の増加など子どもたちの発育にとってはマイナス面がおおきいのです。

コロナ禍の影響は根深く、長期間続きます。

こうした社会背景から子供たちの心育を応援するため、株式会社シェルメールの代表者の芙和せら（心理カウンセラー、公認心理師）が、長年、心理教育に関わってきた経験を活かして、生花による子供の心育『キッズベリー花育ラボ』を立ち上げました。

